

# 核兵器廃絶国際デー（9月26日）に呼応して 「非核日本キャンペーン」の全国行動にとりくもう！ 草の根での宣伝、署名、原爆展開催を！

原水爆禁止2024年世界大会の成功のために奮闘された全国の原水協、参加されたすべてのみなさんに、心から敬意を表します。

今年の世界大会は、核兵器使用の「瀬戸際」ともいふべき危機的状況に世界が直面するもとで開かれました。大会は、核兵器禁止条約を力に、世論と運動をさらに発展させ、核兵器固執勢力を追い詰めていくことで、核兵器廃絶の展望を開くことができると確信をもって表明し、被爆80年にむけて、核兵器廃絶を求める壮大な運動の展開をよびかけました。行動に踏み出しましょう。

世界大会から1か月余、今日の危機的状況をもたらしてきた核大国のアメリカもロシアも核兵器に固執し続け、核兵器使用態勢の強化をはかっています。この日本では、岸田政権によって日米軍事同盟の大変質がおこなわれ、「戦争する国づくり」の暴走がアジアの平和と安全を脅かし、国民の未来を奪おうとしています。

被爆者・国民の平和の願いに背き、核兵器禁止条約に反対し続け、「核の傘」依存、日米軍事同盟強化、「戦争する国づくり」をすすめる政治を終わらせなければなりません。

自民党総裁選挙がはじまり、この秋、総選挙がおこなわれる可能性が濃厚です。

今度の総選挙は、憲法9条にもとづく平和外交、核兵器禁止条約に参加する日本に転換させるチャンスです。「戦争と核破局か、平和・安全と非核か—世界の進路を決するのは、主権者である私たち」（国際会議宣言）です。

9月26日の行動を被爆80年に向けた全国行動の出発点として位置づけ、すべての市区町村で核兵器禁止条約参加の住民の多数意見をつくることを目標にとりくみましょう。以下の行動をよびかけます。

- 1、 「核兵器廃絶国際デー」の9月26日、日本全国、全都道府県、市区町村、地域・職場・学園で、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求め、街頭・駅頭・学校門前などでの宣伝・署名行動にとりくみましょう。
- 2、 被爆の実相をひろげ、核兵器の非人道性を告発する「原爆展」や被爆体験を語るつどいをひらきましょう。
- 3、 2024年世界大会「国際会議宣言」「広島からのよびかけ」「長崎からすべての政府への手紙」を学び、力にしましょう。

2024年9月11日 原水爆禁止日本協議会  
事務局長 安井正和